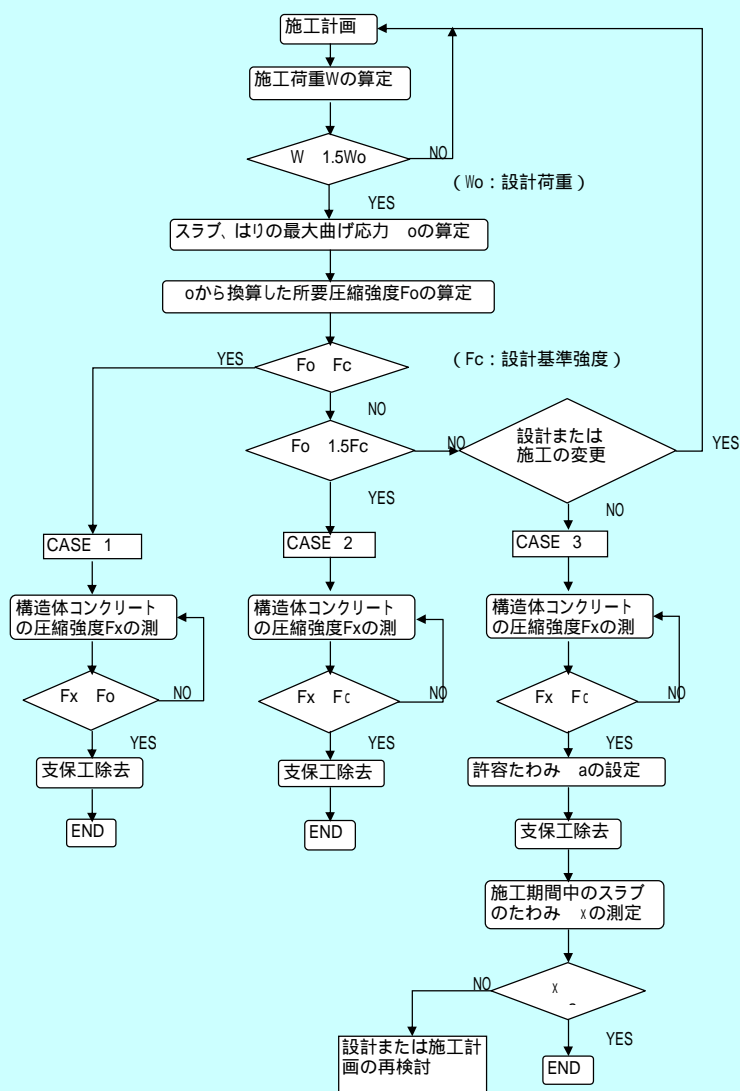


型枠の存置期間

JASS 5 12.9 型枠の存置期間(1997年)より抜粋

- c. 支保工の存置期間は、スラブ下・梁下とも設計基準強度の100%以上のコンクリートの圧縮強度が得られた事が確認されるまでとする。
- d. 支保工除去後、その部材に加わる荷重が構造計算書におけるその部材の設計荷重を上回る場合には、上述の存置期間にかかわらず、計算によって十分安全であることを確かめた後に取り外す。
- e. 上記c項より早く支保工を取り外す場合は、対象とする部材が取外し直後、その部材に加わる荷重を安全に支持できるだけの強度を適切な計算方法から求め、その圧縮強度を実際のコンクリートの圧縮強度が上回ることを確認しなければならない。ただし、取外し可能な圧縮強度は、この計算結果にかかわらず最低 12N/mm^2 以上としなければならない。
- f. 片持梁またはひさしの支保工の存置期間は、上記c、d項に準ずる。



支保工存置期間算定のフロー